

第11回 熊本県医療人育成総合会議

主催/公益財団法人肥後医育振興会 後援/熊本日日新聞社
協力/高橋酒造株式会社、一般財団法人化学及血清療法研究所

ウィズコロナ時代の臨床実習



「ウィズコロナ時代の臨床実習」をテーマに開かれた熊本県医療人育成総合会議の会場＝熊本市中央区の熊本大学医学部キャンパス



尾池 雄一氏
熊本大学大学院生命科学研究部
分子遺伝学講座教授

中村 公俊氏
熊本大学大学院生命科学研究部
研究科小児科学講座教授

講演⑤ 臨床実習代替教育の現状とウィズコロナ時代の臨床実習教育

池田 耕治氏
熊本大学大学院生命科学研究部
分子遺伝学講座教授

臨床実習代替教育の現状とウィズコロナ時代の臨床実習教育。ウィズコロナ時代の臨床実習教育は、従来のオンサイト(現場)の学びとオンラインを活用したハイブリッド型を組み合わせた教育が今後必要である。臨床実習代替教育の現状とウィズコロナ時代の臨床実習教育。ウィズコロナ時代の臨床実習教育は、従来のオンサイト(現場)の学びとオンラインを活用したハイブリッド型を組み合わせた教育が今後必要である。

講演④ コロナ禍における看護学臨床実習

尾池 雄一氏
熊本大学大学院生命科学研究部
分子遺伝学講座教授

コロナ禍の中、熊本大学などの看護学は「感染症」(COVID-19)の発生による臨床実習の中断や、4年次の臨床実習(看護実習)の中断、看護学部の閉鎖(閉学)などの影響を受けている。看護学部の閉鎖(閉学)などの影響を受けている。看護学部の閉鎖(閉学)などの影響を受けている。

講演⑥ 臨床実習の現状とウィズコロナ時代の臨床実習教育

大原 祐輔氏
熊本大学大学院生命科学研究部
分子遺伝学講座教授

臨床実習の現状とウィズコロナ時代の臨床実習教育。臨床実習の現状とウィズコロナ時代の臨床実習教育。臨床実習の現状とウィズコロナ時代の臨床実習教育。

講演③ コロナ禍で感じた関係各所との連携

石塚 洋一氏
熊本大学大学院生命科学研究部
分子遺伝学講座教授

コロナ禍で感じた関係各所との連携。コロナ禍で感じた関係各所との連携。コロナ禍で感じた関係各所との連携。

実習体制の再構築が必要

熊本のより良い医療・福祉の実現と、それを支える人材の育成を目指す第11回熊本県医療人育成総合会議(実行委員長・片淵秀隆肥後医育振興会常任理事)が11月23日、熊本市中央区本荘の熊本大学医学部キャンパスで開かれた。

西勝英・肥後医育振興会理事長の主催者あいさつの後、「ウィズコロナ時代の臨床実習」をテーマに、関係学科の教育に関わる6人が講演。登壇者らによる総合討論もあり、臨床実習の本質や課題などについて意見を交わした。

講演① コロナショックと社会の未来

松下 修三氏
熊本大学大学院生命科学研究部
分子遺伝学講座教授

新型コロナウイルスは「世界的大流行」(パンデミック)には、必ずしも「人類の存続」を脅かすものではない。新型コロナウイルスは「世界的大流行」(パンデミック)には、必ずしも「人類の存続」を脅かすものではない。

講演② 熊本大学医学部医学科での遠隔臨床実習について

古川 昇氏
熊本大学大学院生命科学研究部
分子遺伝学講座教授

熊本大学医学部医学科での遠隔臨床実習について。熊本大学医学部医学科での遠隔臨床実習について。熊本大学医学部医学科での遠隔臨床実習について。

臨床体験補完する役割

大原 祐輔氏
熊本大学大学院生命科学研究部
分子遺伝学講座教授

臨床体験補完する役割。臨床体験補完する役割。臨床体験補完する役割。

子部実習の問題点や進むべき方向性

石塚 洋一氏
熊本大学大学院生命科学研究部
分子遺伝学講座教授

子部実習の問題点や進むべき方向性。子部実習の問題点や進むべき方向性。子部実習の問題点や進むべき方向性。

総合討論

尾池 雄一氏
熊本大学大学院生命科学研究部
分子遺伝学講座教授

総合討論。総合討論。総合討論。

大原 祐輔氏 臨床教育の体系的な統合に期待

大原 祐輔氏
熊本大学大学院生命科学研究部
分子遺伝学講座教授

臨床教育の体系的な統合に期待。臨床教育の体系的な統合に期待。臨床教育の体系的な統合に期待。

安武 綾氏 臨床実習で高まる「自己効力感」

安武 綾氏
熊本大学大学院生命科学研究部
分子遺伝学講座教授

臨床実習で高まる「自己効力感」。臨床実習で高まる「自己効力感」。臨床実習で高まる「自己効力感」。



「ウィズコロナ時代の臨床実習」をテーマに開かれた熊本県医療人育成総合会議の会場＝熊本市中央区の熊本大学医学部キャンパス